

第8編

次世代のチーム医療を 落ち着いて考える会

1. 「次世代のチーム医療を落ち着いて考える会」 趣意書

1-1 趣意書

厚生労働省「チーム医療の推進に関する検討会」が2010年春に取りまとめた提言によりますと「チーム医療」とは「多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつ互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」とされています。また、病院で働く14の職能団体により横断的に構成された「チーム医療推進協議会」は、現在のチーム医療が抱える問題点として、「チーム医療についての教育の不足」「チーム医療に対する客観的な評価の欠如」などを挙げています。

順天堂大学がんプロフェッショナル養成コースが企画したチーム医療合宿は、理想的なチーム医療教育を目指して毎年のように趣向を変え色々な取り組みを行ってきました。3回目となる今年は、チーム医療を学ぶシナリオ教材を作成するという特に奥深い内容でしたが、参加学生（社会人を含む）のほとんどは、各職種が患者に対して職能を発揮する機会を設ければよいという考えでロールプレイが行われ、「各職種が患者のために目的と情報を共有し、業務を分担しつつ互いに連携・補完し合う」というチーム医療の真の意義を十分に理解していない現状が浮き彫りになりました。その結果、学生指導に携わった患者や教員間で、日本の現状をどのように変えていけば理想的なチーム医療に近づけることができるのかじっくり考えようという気運が高まりました。

そこで、日本におけるチーム医療の現状分析を行い、理想的なチーム医療を実現するためにはどうすればよいかについて、じっくり考えて行動を起こそうと患者を交えた各職種の教員により「次世代のチーム医療を落ち着いて考える会」を発足致します。

平成22年10月

「次世代のチーム医療を落ち着いて考える会」代表

小茂田 昌代